

親の育ちを応援する学習プログラム

ワークシート編



I-1 子どもは「生き生き」してる？

ワーク1

- 最近のあなたのお子さんが「生き生き」していた場面を思い出し、気楽に話し合しましょう。(公園では？ 自然の中では？ 室内では？)

ワーク2

- なぜ、あなたのお子さんが「生き生き」できたのか、話し合しましょう。

An illustration of three children playing in a pool. One child is in the center, wearing a yellow swimsuit and a white swim cap, with arms raised. Two other children are in the foreground, one wearing a red swimsuit and the other a pink one, both also wearing white swim caps. Blue curved lines around them suggest movement and water splashes.

資料

自己発揮が大切な4～5歳児

4歳頃には、草花や虫といった身近な自然に興味をもち、積極的にかかわろうとするようになり、認識力や色彩感覚が育ってきます。また、想像によりイメージを広げる力が高まってきて、友達とイメージを共有して、ごっこ遊びに没頭するようになります。5歳頃になると、運動能力が高まり、縄跳びやボール遊びなどの体全体を使った複雑な運動をするようになり、鬼ごっこなどで活発に体を動かすようになります。

この頃は、子どもたちが自己を十分に発揮し、生き生きと活動できることが大切です。

(厚生労働省「保育保健指針解説書」フルベール館 2008年)


ワーク3

- お子さんが「生き生き」と活動できるように、これからどんなことをしたいですか？
出し合いましょう。



ふりかえり

- 感想を発表し合いましょう。



I-2 子育てのイライラとうまく付き合う親になろう

いつも笑顔で子育てをしたい。親ならみんなそう思っています。しかし、することも考えることも多くて、イライラしてしまうことだってあるのです。

【エピソード】

今日は日曜日。智子さん家族は外出して帰りが遅くなってしまいました。智子さんが忙しく夕食を作っている間、子どもたちは部屋中におもちゃを出して遊んでいます。お父さんは横になってテレビを見ている。夕食も遅くなってしまいイライラしている智子さんは、子どもたちに「早く片付けなさい」と怒鳴ってしまいました。

ワーク1

- この後、子どもたちとお父さんはどうしたと思いますか？

ワーク2


- もし、智子さんが「あっ、私、イライラしている」と自分のイライラ感情に気付いたとしたら、子どもたちにどのような対応ができると思いますか？

ワーク3

- エピソードのように、お子さんにイライラして怒鳴ったり、ガミガミ怒ってしまうことはありませんか？
あなたはどんな時にイライラしてしまいますか？

ワーク4

- イライラしている時に、あなたならどんなことをしてイライラ感情をコントロールできそうですか？



ふりかえり

- 感想を發表し合いましょう。

I-3 子ども同士のトラブル・・・どう解決する？

ワーク1

- お子さんの最近あった子ども同士のトラブルを思い出し、気楽に出し合しましょう。

ワーク2

【エピソード】

校庭でのできごと。一輪車に乗っていた茂くんが、そこに一輪車を置いたままトイレに行きました。戻ってみると、弥太郎くんがその一輪車に乗っていました。茂くんは「返せ！」と言いましたが、弥太郎くんは「ボクが今使っているんだよ！」と言い、返してくれません。一輪車の取り合いになり、茂くんは泣いてしまいました。それを見ていた弥太郎くんのお母さんは、「茂くんが乗っていたんだから、返しなさい！」と怒りました。近くには、茂くんのお母さんもいました。

- 茂くんと弥太郎くんと茂くんのお母さんの気持ちについて話し合しましょう。
- 弥太郎くんのお母さんだったら何というか話し合しましょう。
- 茂くんのお母さんだったらどうするか話し合しましょう。

資料

トラブルの経験は次の段階へのステップです。

3～4歳頃になると、友達と一緒に遊びたがるようになります。物の取り合いからケンカになったり、遊びの中で互いの主張をぶつけ合ったりするようになります。しかし、こうしたトラブルの中で、子どもたちは、順番に使ったり、きまりを守ったり、また、つらい思いをしながら相手の主張を受け入れたり、自分の主張を受け入れてもらったりする経験を積み重ねていきます。また、その後の集団で活発に遊ぶ姿につながっていきます。

大人は、子どもたちが自分たちでトラブルを解決できるように、必要な援助をしていくことが大切です。

(厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2008年)

ワーク3

- 気付いたことや子ども同士のトラブル場面でこれから自分にできることを出し合しましょう。

ふりかえり

- 感想を発表し合しましょう。

Ⅱ-1 早ね早おき朝ごはん、元気もりもり大作戦！

【エピソード（1）】 大きなあくび ウトウト

慎太郎くんは、小学校2年生。最近、朝の目覚めが良くないようです。おうちの人に毎朝「慎太郎、早く起きんと学校に遅れるで！」と言われていました。慎太郎くんは、とっても眠そうで、あくびばかりしています。目をこすりながら朝食をすませ、着替えたあと、急いで家を飛び出していきました。学校でも、慎太郎くんは元気がありません。午前中の授業から「あ〜あ」と大きな口をあけてあくびばかりしています。ときどき、ウトウトしている様子。

ワーク1 「気付いていますか 子どもの生活」

- エピソード（1）を読んで、あなたのお子さんの朝の様子を思い出してみましょう。気づいたことを皆さんで意見交換してみましょう。

気付いたことは…

- なぜ、慎太郎くんは、朝の目覚めが良くないのか、午前中の授業からあくびをしたりウトウトしたりしてしまうのか、原因を考えてみましょう。そして、気づいたことを皆さんで意見交換しましょう。

気付いたことは…

ワーク3

- 子どもが苦手な食材を克服するために、何か工夫していることはありますか？
書き出して、グループで紹介し合ひましょう。

ふりかえり

- 本日の話し合いをふりかえって、取り入れてみようと思ったことや感想などを書いて
みましょう。



Ⅱ-3 子どもの規範意識ってどうやって育てるの？

【エピソード】

小学校4年生の息子は、カードゲームに夢中。学校から帰ってきて暇さえあれば友達とカードを持ち寄って遊んでいます。

ある日、息子がカードを散らかしたまま遊びに出かけてしまい、見るに見かねて片付けることにしました。その数の多さに驚かされながらもよく見ると、買った覚えのないものがあることに気付きました。息子とは、友達とのトラブル回避のためカードをあげたりもらったりしない約束をしていたはずなのに……。

帰ってきて、話を聞いてみると、やはり、友達同士でカードをあげたりもらったりしていました。息子は、いけないことだとわかっていながらも、仲良しの友達が数多くこのようなやりとりをしているのを見ているうちに、我慢できず約束を破ってしまったようです。また、友達の中には、子ども同士で売買したりしている子もいて、トラブルが起きていることもわかりました。

子どもに対してどのように話をしたらよいのでしょうか。

ワーク1

- あなたがこの息子の保護者なら、この後、息子にどのような話をしますか？

グループの中で「保護者役」と「息子役」に分かれてロールプレイ(役割演技)してみましょう。



息子役の方のせりふの例

- ・どうしても友達のカードがほしかったがよ！
- ・友達に「交換しようや」と言われて断り切れなかったが！
- ・友達みんながやりゆうき、ついやってしまうた。
- ・友達みんながやりゆうき、自分もやらんと仲間はずれになると思うたが。

ワーク2

- このエピソードと似たような経験を語り合ってみましょう。(お子さんのエピソードでも、あなた自身が子どもの頃のエピソードでもどちらでもかまいません。)

	あなたのお子さんのエピソード	あなた自身が子どもの頃のエピソード
話す内容	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような出来事？ ・保護者としてどのように対応した？ ・保護者として考えさせられたことは？ <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような出来事？ ・あなたの保護者の対応で心に残っていることは？ ・あなたが考えたことは？ <p style="text-align: right;">など</p>

ワーク3

●家で約束やルールをつくる時に気を付けていることはどのようなことですか？

また、お子さんがその約束やルールを大切に思い、守っていけるようにするためにどのようなことをしていますか？

あなた

【つくる時】

【大切に思い、守っていけるように…】

グループ

資料1

ルールって だれのためにあるんだろう

子どもたちは、家庭でのルールや約束を守ったり破ったりしながら、人との関係の在り方や社会のルールの大切さを学んでいきます。

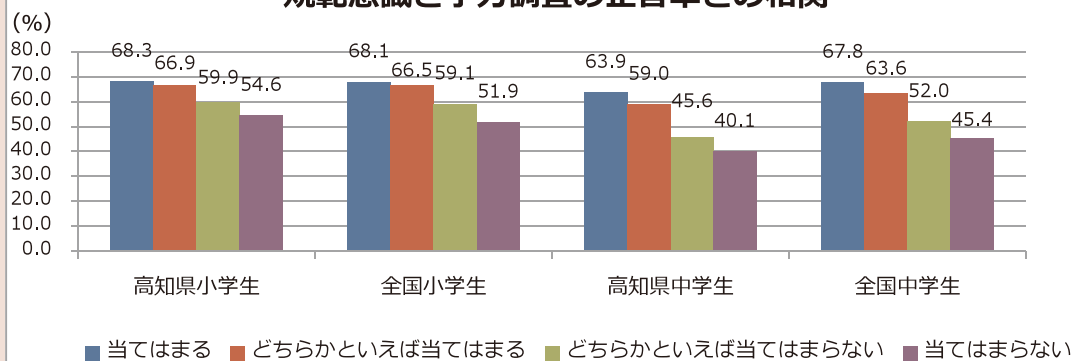
家庭のルールには、あいさつ、家に帰る時間、寝る時間、きちんとした姿勢などの生活上のルールもあれば、他人に迷惑をかけない、うそをつかないなどといった道德上のルールもあります。

しつけに一貫性をもたせ、しっかりと身につけさせるためにも、夫婦がよく相談してはっきりしたルールをつくり、子どもとともに親もそれを守りましょう。また、子どもの意見を聞いて一緒にルールをつくるという姿勢も大切です。

〔「家庭教育手帳」小学生(低学年～中学生)編<ワクワク子育て>P.40(文部科学省)より〕

資料2

規範意識と学力調査の正答率との相関



文部科学省：全国学力・学習状況調査（平成26年度）

ふりかえり

●子どもの規範意識を育てるために取り組んでみようと思ったことを書いてみましょう。

Ⅱ-4 ふりかえろう・・・子どもとの接し方

ワーク1

【エピソード（1）】

優しくてのんびりしている兄の退助（4年生）、活発で元気いっぱい妹の久美子（3年生）がいます。退助がコンピュータゲームをしています。久美子が「私にもやらせてや。」と言ってきました。ちょうどいいところなので退助は「今、えいところやき、ちょっと待ちよって…」と言いましたが、久美子は「ねえ、替ってちや…」と何度も言うので言い争いになりました。そこへ母親がやってきて、

母親	「もう、お兄ちゃんだから久美子に替っちゃりなさい。」
退助	「もうすぐクリアできるがやき～・・・もうちょっとまってや～」
母親	「どうせずっとやりよったがやろ。あんた、お兄ちゃんやき、替っちゃりなさい。」
退助	「なんで『お兄ちゃん、お兄ちゃん』って・・・、いつも、ぼくばかり叱られるがで。」

- （1）の の部分を、母親役と退助役と観察役（1～2名）になって演技してみましょう。役をして、どんなことを感じましたか？

【エピソード（2）】

母親と退助と久美子の3人で晩ご飯を食べています。

母親	「すごいねえ。やっぱり久美子は、よう勉強するねえ。次も頑張りよ。」
久美子	「うん。それから、体育で縄跳びもクラスで一番たくさん跳べたがやき。」
母親	「へ～、久美子は何でもできるがやね。やっぱり私に似たがやね。」
母親	「そういえば、茂くん（退助の友達）もいつも100点ながやと・・・。」

退助は、うつむきながらご飯を食べています。

この時の退助の気持ちは・・・。



ワーク2 ～子どもの人権を意識した視点から～

●子育てについての考え方は、まさに様々です。あなたはどのように思いますか？

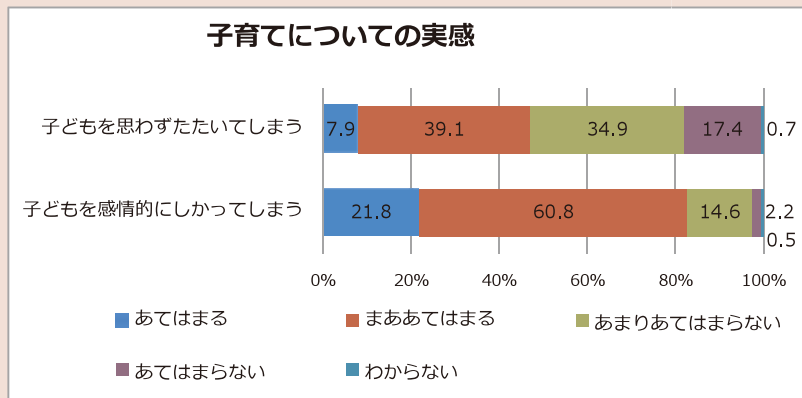
	そう思う	どちらか と言えば そう思う	どちらか と言えば 思わない	思わない
① 子どもの日記や手紙を勝手に読んでもよい。				
② 子どもの友達つきあいにはいつも気を配る。				
③ 宿題をするまで晩ご飯を食べさせない。				
④ 「男は男らしく」「女は女らしく」育てたい。				
⑤ 携帯電話のアクセスを制限してもよい。				
⑥ 危ないと思うことは何もさせない。				
⑦ ほめることが大切なので叱ることはない。				
⑧ 親が子どもの服装や髪型を決めてもよい。				
⑨ いじめは、いじめられる方にも原因がある。				
⑩ しつけをするためには、たたくこともある。				

参考：人権教育指導資料Ⅲワークショップ下「あなたの意見 子どもの意見」

感情にまかせて叱ることとしつけはちがう

資料1 子どもの心や身体を傷つけるような叱り方は、教育的な効果がないばかりでなく、児童虐待につながる可能性があります。

※児童虐待に気付いたら、通報の義務があります。



「第3回子育て生活習慣調査（幼児版）」2008年 Benesse 教育研究開発センター

資料2 児童虐待以外にも、子どもの人権に関わることにはこんなものがあります。

例：いじめ、家庭内のDVを見（させ）る、ネット・ケータイによるいじめや犯罪、親の生活時間に子どもを合わせる、習い事の強制など

ふりかえり

●これから、気を付けようと思ったことを一つ書きましょう。

Ⅱ-5

困ったことへの対処法

子どもが成長するにつれて、活動範囲が広がり、交友関係も広がっていきますね。すると保護者としては、今までとは違った形の「困ったなあ・・・。」と感じる事態に遭遇することも増えてきます。ここでは、子育てに係る様々な問題への対処法について、みなさんで考えましょう。

【エピソード】「もう学校へ行きたくない」

小学校3年生の龍馬くん。保護者からみるととても優しい子ではありますが、少々気が小さくて、自分の思いをはっきりと言にくいことが気がかりでした。でも、毎日元気に学校へ出かけていく姿を見て、まあ楽しくやっているのだろうと安心していましたが、ある日、「もう学校へ行きたくない。」と泣いて帰ってきました。いくら理由を尋ねても話したがりません。

～休み時間に、ドッジボールに入れてもらおうと、じっと長い間様子を見守り、やっとのことで勇気を出して「入れて」とお願いしたところ、弥太郎くん「人数が合わなくなるからダメ」と言われてしまったようです。～

ワーク1 ★泣いているばかりの龍馬くん。どんな声かけをしていけば、理由を話してくれるでしょう。また、理由を聞いた保護者の気持ちは？

● ロールプレイに挑戦！

- ・ グループの中で、龍馬くん役と保護者役を決めて、ロールプレイをしてみましょう。
- ・ 二人の役以外の方は、やり取りを見て、感じたことを後で話し合しましょう。



● 「龍馬くんの気持ち」「保護者の気持ち」について話し合しましょう。

龍馬くんの気持ち

保護者の気持ち

ワーク2 ★龍馬くんの問題を解決するために、どう対応していけばよいでしょう？

●あなたならどうしますか？

龍馬くんとの話で収める。

家庭で相談する。

弥太郎くんの家へ電話する。

担任の先生へ電話する。

周りの保護者に電話する。

その他 ()



●その後の展開を想像してみましょう。

●後日、龍馬くんのことを知らされた弥太郎くんの保護者はどうしたらよいでしょう？

ワーク3

●エピソード以外の事例についても、対応方法を自由に話し合い、日頃から心がけておくことについてグループでまとめましょう。

<想定される困った事例>

○家での暮らしの中で

- ・テレビやゲームに夢中で、やるべきことをしようとしめない・・・。
- ・急に反抗的になって、言うことを聞かなくなってしまう・・・。

○学校や地域での暮らしの中で

- ・友達に、学用品をこわされてしまって・・・。
- ・ふざけていて、友達にけがをさせてしまって・・・。
- ・友達に誘われて、一緒に万引きをしてしまって・・・。

日頃から、こんなことをしておけば！

・
・

ふりかえり

●「気付いたこと」「やってみようと思ったこと」を書きましょう。

Ⅱ-6

いろいろなことにチャレンジしよう！体験のススメ！

あなたが子どもの頃と、今のお子さんとは生活環境や生活スタイルがずいぶんと変化してきました。便利になった分、学ぶきっかけなどを失ったものもあるのではないのでしょうか。

ここでは、子どもたちが「生活体験」や「自然体験」を通して学ぶことについて考えてみることにしましょう。

【エピソード】



ワーク1 ●子どもたちが活動している写真を見て、吹き出しにことばを書いてみましょう。

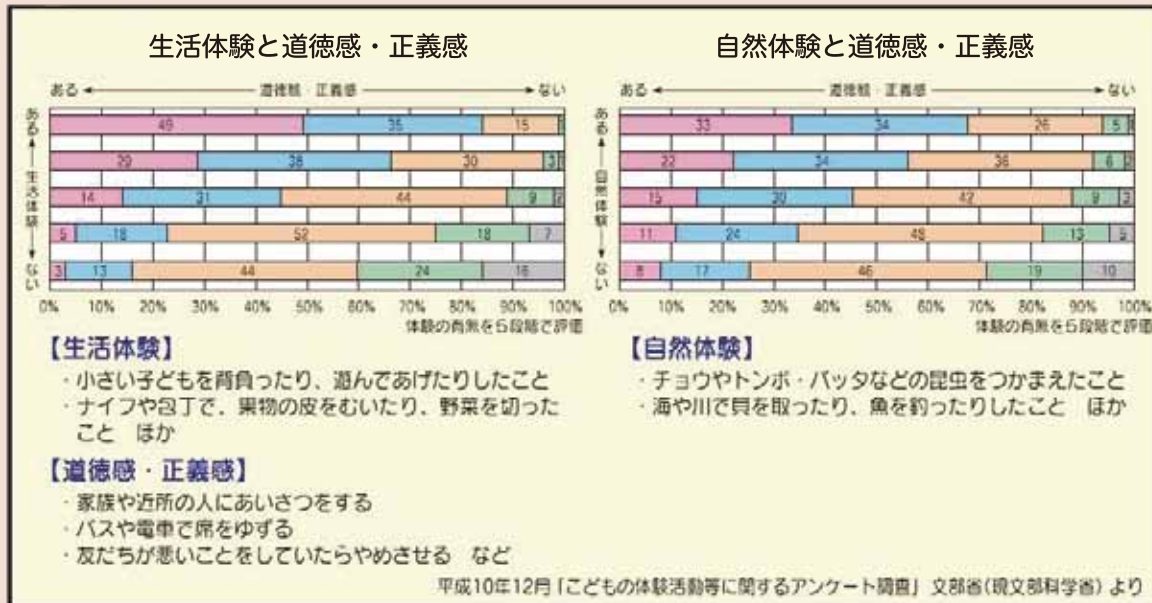
ワーク2 ●写真の子どもたちは、このような体験を通して、どう変わっていくと思いますか？
グループで話し合ってみましょう。

ワーク3 ●体験を通して、子どもにとってプラスになることを3つ書いてみましょう。

•
•
•

ワーク4 ●お子さんと一緒にしたい「体験」や、させたい「体験」を考えてみましょう。

資料



ふりかえり ●このプログラムを通してどんなことに気づきましたか？

Ⅲ-1 思春期の心 ～青春時代へタイムスリップ～

思春期は、保護者にくっついたり離れたりしながら成長していく時代です。保護者や先生に反抗したり、何となくイライラしたり、無気力になったりするようになることは思春期では当然の変化なのです。保護者の方も、腹が立ったり、どんなことが起こるのか不安になったりと、子ども以上に緊張したりして。

でも大人になった人はみんな経験しているはず。それなのに、なぜわが子の思春期に動揺するのでしょうか。

青春時代にタイムスリップして、思春期真っ只中の子どもとの関わり方について考えてみましょう。

ワーク1 『私の思春期』

- 自分がわが子と同じ年齢だった頃を思い出して書きましょう。



①好きな教科、嫌いな教科	②思い出に残っていること（学校行事等）
③夢中になっていたこと	④好きだった芸能人

- 今のわが子を見て、あなたの思春期の頃と同じだなあと思うことがありますか？
自分はどのように保護者（自分の親等）と関わっていたか、どのように保護者のことを思っていたかをふりかえり、書きましょう。

ワーク2 『保護者からみた子どもの変化』

- 思春期を迎える前と比べて、子どもの変化で気付いたことを書きましょう。

	こんなところが変わったと感じた
親や家族との関係 (会話などから気付いたこと)	(例) 会話がはずまなくなった。面倒くさがる。
学校生活や私生活に関して	(例) イライラしていることが多い。人前に出て活躍することで、自信をもったようだ。
友達との関係	(例) メールで連絡をとっていることが多い。交友関係が広がった。
その他 (自立したことなど)	(例) 自分のことは自分でできるようになった。部活動に熱中し、意欲的になった。

ワーク3 『思春期を迎えた子どもへの接し方』

●変化した子どもにどのように接していけばよいと思いますか？

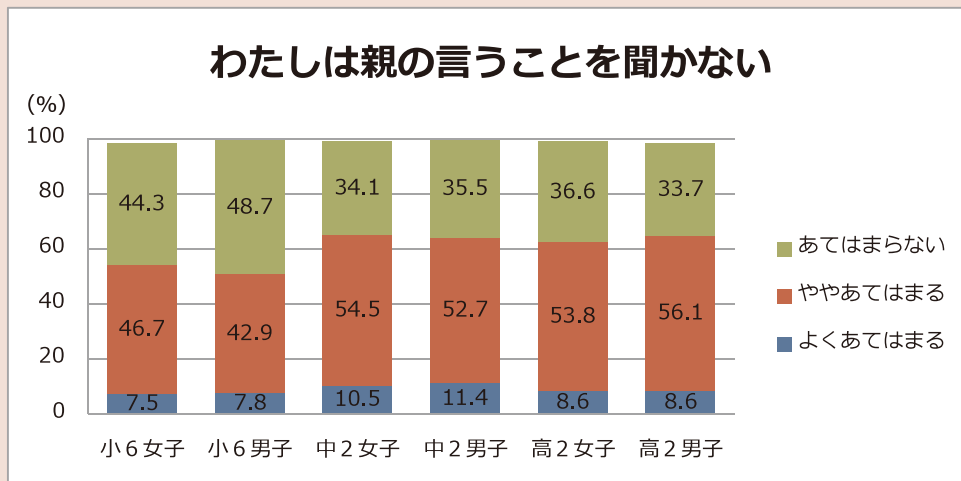
ワーク2をもとに、書きましょう。

ふりかえり

●あなたはどれくらい子どもの気持ちに近づけましたか、書きましょう。

●わかったこと、考えが変わったことを書きましょう。

資料1



文部科学省：「児童生徒の心の健康と生活習慣に関する調査」（平成14年）

資料2 家庭教育手帳「楽しい子育て」（高知県地域家庭教育推進協議会）

→高知県教育委員会事務局生涯学習課からダウンロードできます。

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310401/files/2014053000311/kateikyoubukutetyou.pdf>



Ⅲ-2

子どもの「ケータイ・スマホ」

どう考える？

ワーク1

●子どもの「ケータイ・スマホ」利用をめぐるトラブルには、どんなものがあるのか、話し合みましょう。また、次の資料からも見つけてみましょう。

資料

新聞記事「非出会い系サイトでも児童・生徒の犯罪被害急増」(産経新聞 2009年12月25日付)

今ではなくてはならない存在となった携帯電話。犯罪に巻き込まれるケースも多く、注意が必要だ＝14日、東京・渋谷(本文とは関係ありません)



女友達と思つたら
小学生女児の裸の画像などをネットに掲載したとして横浜市内の専門学校少年(19)が今年2月、児童ポルノ禁止法違反容疑で山梨県警に逮捕された。県警によると、県内に住む女児の画像二十数枚を掲載し、不特定多数が見られるようにしたとされる。少年はゲームサイトを通じて女児と知り合い、携帯電話のメールアドレスを交換。顔写真も送らせ、「言つことを聞かない」と出会い系サイトに画像を載せるぞ」と脅し、裸の画像を送らせていたという。

このほか、別の事件では少女が「女の子の友達ができた」と喜んで載せて待たせると、現れたのは男。男はネット上で女になりすましていた。少女は

「知らない人とはついていかない」と幼少のころから親と約束していたが、メールで懐み相談に乗ってもらった親近感から意気投合した。しかし、性被害に遭った。

「この数年、こうした一般サイトを悪用した犯罪が急増している。警察庁などの統計によると、出会い系サイトがきっかけの被害児童(18歳未満)数を上回っている。

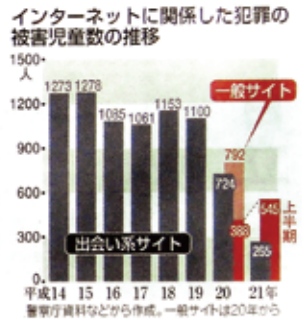
フィルタすり抜け
犯罪の内訳はゲームサイトが最多。プロフ、ブログ(日記風

- 1 時間を決める(1日計1時間まで)
 - 2 料金の支払い限度を決める
 - 3 携帯電話を親に見せられる状態にある(監視しなくてもいいが、親が「見せて」と言ったらとき通話記録やメールの内容を見せるよう話しておく)
 - 4 学校のルールに従う
 - 5 誰の心も傷つけない書き方を心がけ、相手や自分の命を守る
 - 6 困ったらすぐ大人に相談する
 - 7 約束を守れなかったら親が困る
- (田中博之著「ケータイ社会と子どもの未来」より)

非出会い系サイトでも児童・生徒の犯罪被害急増

親子で使用ルールを 子供に警戒心持たせ

ゲームやブログ(自己紹介サイト)などインターネットの一般サイト、いわゆる非出会い系サイトで児童や生徒が巻き込まれる犯罪が急増している。ゲームを楽しんでいると親が安心していたら子供は見知らぬ相手と対面後におしゃべりし、誘い出されて被害に遭ったケースも。親子で携帯電話を持つルールを見直してみたい。(牛田久美、写真も)



被害数 出会い系を上回る
警察庁によると、インターネットの一般サイトに関する犯罪の被害児童(18歳未満)数は統計を取り始めた平成20年以降、出会い系サイトの被害児童数を上回っている。統計では、一般サイトでの被害児童数は545人で出会い系(265人)の2倍。殺人事件は20年、21年上半期とも出会い系は1人、一般サイトがそれぞれ2人、1人だった。

※最近の記事に替えるなど、より身近なこととして考えられるよう工夫しましょう。

ワーク2

- 「ケータイ・スマホ」のトラブルや依存を防ぐため、家庭でできることを話し合みましょう。

ワーク3

- 「ケータイ・スマホ」利用のわが家のルールをつくってみましょう。

- ・
- ・
- ・

ふりかえり

- 話し合いで学んだことを書いてみましょう。



Ⅲ-3 異性との付き合い、男女の付き合い

【エピソード】 ◎思春期相談コーナー◎

<相談者Aくん>

ぼくは、好きな女子がいます。その人のことを考えると胸がドキドキして、何も手につかなくなってしまいます。いつの間にかその人のことを思ってしまうのです。

ところが、最近その人がどうもぼくを嫌っているみたいなのです。ぼくは、とても不安で、最近は夜も眠れません。どうすることもできない淋しさに襲われてきます。何をやっても手につかなくなります。今とても苦しいです。

<相談者Bさん>

私の子どもは、中学校2年生ですが、アダルトビデオや成人雑誌を隠しているみたいです。また、時々、インターネットで成人用のウェブページを見ているみたいです。

この前まで素直に何でも話してくれたのに最近は、ほとんど会話もなくなりました。このまま問題行動に走らないかとても心配です。父親は単身赴任で半年に一度しか帰ってきません。とても心配です。

<相談者Cさん>

娘は、高校1年生で同じ学校の同級生の男子を好きになり交際するようになりました。交際してから最初のころは休日に映画を見たり、帯屋町に行ったりしてデートをしていましたが、最近では、互いの家を行き来して、二人で夜遅くまで過ごすことが多くなってきました。娘と話をしていると、先日どうもその相手から性交を求められたようです。

ワーク1

- エピソードを読んで感じたことを、自分の経験（思春期の頃、現在のお子さんのこと）も含めて話し合ってみましょう。

ワーク2

● Aくん、Bさん、Cさんにどのようなアドバイスをしますか？

	あなたからのアドバイス	グループからのアドバイス
Aくん		
Bさん		
Cさん		

ふりかえり

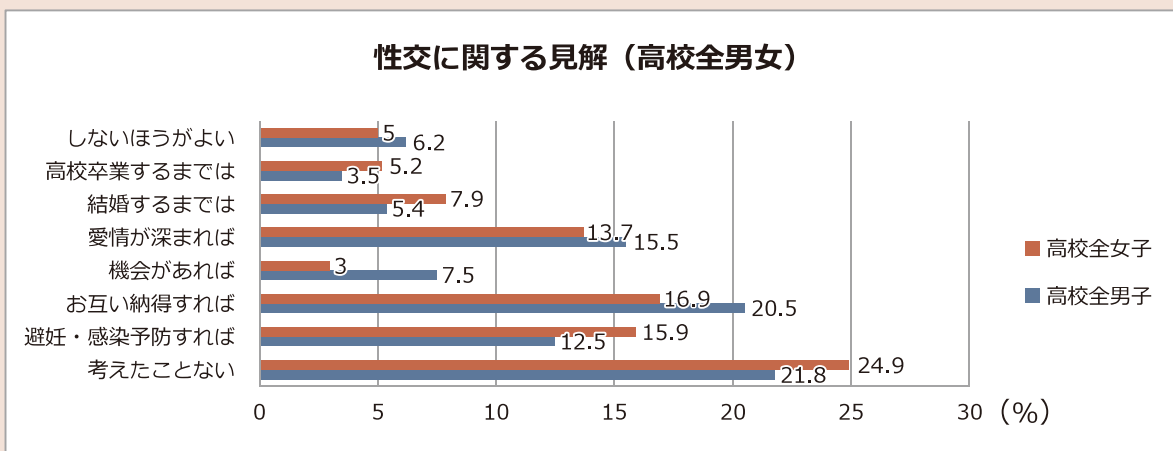
- あなたが自分のお子さんに対して伝えたいことはどんなことですか？
また、それを伝えるためにはどのようなことを心がけたらよいでしょうか？
ワーク1、ワーク2を振り返りながら考えてみましょう。

★あなたが伝えたいこと

★伝えるために心がけたいこと

資料

あなた自身が性交することについてどう思いますか？



2008年「東京都の児童・生徒の性意識・性行動に関する実態調査」結果の概要より抜粋

Ⅳ-1 子育ての不易流行を考える

【エピソード】

ある日の夜、広末さんは夫とふたりでドラッグストアに出かけました。買い物をしていると小さな子どもたちを連れて若い親がお店に入ってきました。最初はおとなしくしていた子どもたちも、次第に店内を走り回り、床に寝ころんだりしはじめました。でも、親は注意する様子はありません。

次の日、孫を連れて遊びにきた息子に、広末さんはさっそく昨晚の出来事を話しました。

息子：「遅い時間に子どもをつきあわせるのはおかしいと思うけど、何か事情があったかもしれんよ。生活のスタイルやって昔と変わってきゆうし。」

広末：「夜遅く、子どもを連れ回すのは、子どもも疲れちよってかわいそうやったで。子どもには子どもの生活リズムがあるがよ。」

ワーク1

- 広末さんと息子のやりとりを聞いて、感じたことを自由に出し合いましょう。

ワーク2

- あなたが子育てしていた頃と、今の子育てや親について変わらないと感じることは何ですか？



ワーク3①

- あなたが子育てをしていた頃とくらべ、今の子育て環境や親の対応について変わったと感ずることは何ですか？

ワーク3②

- 変わったと感ずることの背景は何だと思ひますか？
資料編の資料を参考にして、考へてみましょう。

ふりかへり

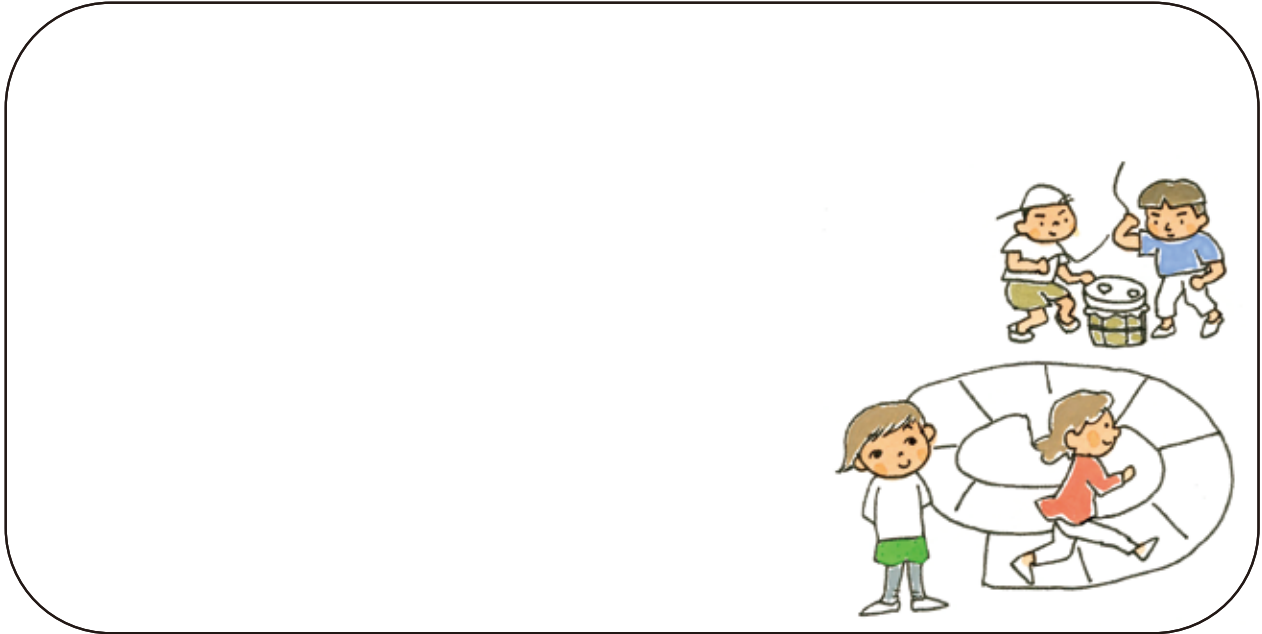
- 子どもや子育て家族を応援する地域の大人として、今日からできることは何ですか？



Ⅳ-2 子どもたちにしてあげたいこと

ワーク1

- みなさんが子どもの頃は、どんな場所で、どんな遊びをしていましたか？
思い出してみましょう。



【エピソード】

万次郎さんは、地域の子どもたちの安全確保に協力しようと、小学校の見守り隊に所属して、近所の子どもたちと毎日あいさつを交わしています。

ある日、いつもあいさつを交わす子どもたちが公園のベンチに座って携帯型ゲーム機で黙って遊んでいます。せっかく一緒に公園で遊んでいるのに、黙々とゲームをしている姿に違和感を感じ、声をかけました。

「せっかく広い公園で遊んでいるのに、どうしてゲームをしているの？」

すると、同じ町内で3年生のかつおくんが、「ぼくの家で遊んでいたけど、お母さんが掃除するから外で遊びなさいって追い出されたの。でも、ゲームしかすることがないし……。」

万次郎さんは、昔は山や川で夢中になって遊んだのに、今の子は外での遊び方を知らないのだろうかと考え込んでしまいました。そして、公園の池にザリガニがたくさんいたことを思い出し、「公園の池にザリガニがたくさんいるから、ザリガニつりをしてみないか？」と誘うと、「やるやる。」「おじさん、やりかた教えて！」と喜んで集まってきました。

万次郎さんが、持ってきた糸とスルメで子どもたちが楽しくザリガニつりをしている姿を、目を細めながら見ていると「この池は危ないので立ち入り禁止になっているんですよ！あの看板を見てください。」と声をかけられました。

万次郎さんは、楽しく遊ぶ子どもたちと立ち入り禁止の看板を前に困ってしまいました。

ワーク2


- あなたが万次郎さんなら、これからどうしますか？

ワーク3

魅力的なテレビゲームやパソコンの普及で子どもたちの外遊びの経験が、少なくなっています。しかし、子どもたちの興味関心は、今も昔も変わりません。子どもたちの遊びや遊び場を制限しているのは、我々大人のほうなのかもしれません。子どもたちの健やかで豊かな成長のために、自分の地域でどんなことができるでしょうか？



- 何ができるかを考え、グループで話し合ってください。



ふりかえり

- 今日の学習で印象に残ったことや気付いたことを書いてください。

Ⅳ-3 親への接し方・子育てアドバイス

子育て広場には、今日もたくさんの親子が訪れ、子どもたちの笑い声が響いています。子どもたちは地域の方に見守られながら、元気に遊んでいます。かたわらではお母さんたちが子どもたちのお世話をしている地域の方と話をしています。お母さんたちも子育てについていろいろな悩みがあるようです。

ワーク1 「つい上の子に……」

●お母さんが次のように話しかけてきました。それぞれの場合について考えてみましょう。



うちは下の子がまだ小さい。どうしても下の子に手がかかって「お兄ちゃんやき、ちょっとぐらい待てるろう？」とか、あんまりうるさいとついお兄ちゃんばかりにきつく言うてしもうて。こんな風にいつも機嫌よく遊んでくれていたら優しくなれるけど。
家では怒ってばかりやし、私って本当にだめよねえ……。

●あなたならどのように答えますか？吹き出しの中に書いてみましょう。



●グループの人の考えも聞いてみましょう。



ワーク2 「私は子どものために一生懸命やっているのに・・・」



うちのお姉ちゃんは小学校2年生なんやけど、本当に忘れ物が多くて困っているんです。前の日には準備しておくように何度も言っているし、朝は必ず忘れ物はないかって声をかけているんですよ。自分でやらせないとためにならないと思って手は出さないようにしているんです。本当にどう言っても子どものほうはまったくのんきで……。私はこの子のことを思って一生懸命やりゆうのに……。もう、どうしたらいいかわからん……。

- お母さんの対応についてどう思いますか。

- あなただったらどのように答えますか。



- ・グループの人の考えも聞いてみましょう。
- ・子育て中の親世代は子育てについてどう思っているでしょう。アンケート (P.78) を見てみましょう。

ふりかえり

- 自分の中で感じたことや考えが変わったことがあれば書いてみましょう。